

第96回 簿記実務検定第2級試験問題

商業簿記

(制限時間 1 時間 30 分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	普 通 預 金	当 座 預 金	有 価 証 券
営 業 外 受 取 手 形	備 品	備品減価償却累計額	営 業 外 支 払 手 形
売 上	雑 益	固 定 資 産 売 却 益	交 通 費
通 信 費	雑 損	固 定 資 産 売 却 損	現 金 過 不 足

- a. 売買目的で宮城商事株式会社の株式300株を1株につき ¥6,100 で買い入れ、代金は買入手数料 ¥15,000 とともに小切手を振り出して支払った。
- b. 青森商店は、取得原価 ¥1,780,000 の事務用の備品を ¥560,000 で売却し、代金は同店振り出しの約束手形で受け取った。なお、この備品の売却時における帳簿価額は ¥712,000 であり、これまでの減価償却高は間接法で記帳している。
- c. かねて計上していた現金過不足勘定の借方残高 ¥13,000 について、原因を調査していたが、決算日に、交通費 ¥12,000 の記入漏れが判明した。なお、残額は原因が不明のため、雑益または雑損として処理した。

2

次の各問いに答えなさい。

- (1) 鳥取商店（決算年/回 12月3/日）における次の勘定の（①）に入る勘定科目と（②）に入る金額を記入しなさい。ただし、利息は毎年同じ金額を4月末日と10月末日に経過した6か月分を現金で受け取っている。

未 収 利 息		受 取 利 息	
1/1 前期繰越 12,800	1/1 (①) 12,800	1/1 () 12,800	4/30 現 金 ()
12/31 受取利息 ()	12/31 次期繰越 ()	12/31 損 益 (②)	10/31 現 金 ()
()	()	△	12/31 未収利息 ()
		()	()

- (2) 次の文を読み、下記の a と b に答えなさい。

商品有高帳の記帳にあたり、払出単価の計算について先入先出法を採用しているときに、物価が上昇し商品の仕入価格が高くなってくると、商品有高帳に記載される商品の次月繰越高は移動平均法を採用しているときと比べ、 なる。

- a. 下線部 を英語表記にした場合にあてはまる語を選び、その番号を記入しなさい。

1. balance sheet 2. moving average method 3. first-in first-out method

- b. にあてはまる語を選び、その番号を記入しなさい。

1. 大きく 2. 等しく 3. 小さく

- (3) 支店会計が独立している岩手商店の下記の取引について、仕訳を示しなさい。ただし、岩手商店は本店集中計算制度を採用している。なお、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金 当 座 預 金 売 掛 金 買 掛 金
花 巻 支 店 北 上 支 店 本 店 損 益

- a. 北上支店は、北上支店の仕入先に対する買掛金 ¥682,000 を花巻支店が現金で支払ったとの通知を受けた。(北上支店の仕訳)
b. 花巻支店は、決算の結果、当期純利益 ¥473,000 を計上し、本店に報告した。(花巻支店の仕訳)

- 3** 岡山商店の6月/日の略式伝票から、仕訳集計表の(ア)から(エ)の金額を計算しなさい。ただし、次の取引について、必要な伝票に記入したうえで計算すること。

取 引

6月 /日 島根商店から商品 ¥176,000 を仕入れ、代金は掛けとした。

〃日 岡山市水道局に水道料金 ¥35,000 を現金で支払った。

入 金 伝 票		振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
売 掛 金	187,000	売 掛 金	407,000	売 上	407,000
売 上	594,000	仕 入	264,000	買 掛 金	264,000
売 掛 金	341,000	広 告 料	83,800	未 払 金	83,800
売 上	759,000	買 掛 金	191,400	普 通 預 金	191,400
売 掛 金	462,000	売 掛 金	396,000	売 上	396,000
受 取 手 形	185,000	() ()	() ()	() ()	() ()
() ()					

出 金 伝 票	
買 掛 金	297,000
仕 入	385,000
前 払 金	57,200
買 掛 金	204,600
通 信 費	29,000
仕 入	237,600
() ()	

仕 訳 集 計 表				
令和〇年6月/日				
借 方	平	勘 定 科 目	平	貸 方
		現 金		(ア)
		普 通 預 金		
		受 取 手 形		
		売 掛 金		
		前 払 金		
(イ)		買 掛 金		
		未 払 金		
		売 上		
(ウ)		仕 入		
		広 告 料		
		水 道 光 熱 費		
		通 信 費		
(エ)				(エ)

4

広島商店の下記の取引について、

- (1) 総勘定元帳に記入しなさい。
- (2) 補助簿である当座預金出納帳、支払手形記入帳、買掛金元帳、商品有高帳に記入しなさい。
ただし、
 - i 総勘定元帳は、日付と金額のみを記入すればよい。
 - ii 商品有高帳は、移動平均法により記帳している。
 - iii 当座預金出納帳、買掛金元帳、商品有高帳は月末に締め切るものとする。

取 引

6月 2日 府中商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。

A 品	30個	@ ¥1,980
B 品	20〃	〃 〃 3,670

6日 福山商店に対する買掛金を、次の約束手形を振り出して支払った。

金 額	¥76,000	手形番号	20
振 出 日	6月6日	支払期日	8月6日
支払場所	南銀行本店		

9日 大竹商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

A 品	20個	@ ¥2,310
B 品	15〃	〃 〃 4,580

16日 大竹商店に対する売掛金 ¥97,400 について、当店の当座預金口座に振り込まれたとの通知を取引銀行から受けた。

21日 三原商店に次の商品を売り渡し、代金は小切手で受け取り、ただちに当座預金とした。

C 品	5個	@ ¥3,560
-----	----	----------

23日 福山商店から次の商品を仕入れ、代金はさきに支払ってある内金 ¥25,000 を差し引き、残額は掛けとした。

A 品	40個	@ ¥1,900
-----	-----	----------

28日 三原商店に対する売掛金 ¥64,700 について、同店振り出しの小切手で受け取った。

30日 府中商店あてに振り出していた約束手形 #18 ¥147,900 が期日となり、当店の当座預金口座から支払われたとの通知を取引銀行から受けた。

5

沖縄商店（個人企業 決算年/回 12月31日）の総勘定元帳残高と付記事項および決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

- (1) 損益計算書を完成しなさい。
- (2) 前払保険料の金額を求めなさい。

元帳勘定残高

現金	¥ 619,000	当座預金	¥ 2,378,000	受取手形	¥ 1,550,000
売掛金	4,050,000	貸倒引当金	39,000	有価証券	1,620,000
繰越商品	760,000	備品	2,250,000	備品減価償却累計額	1,125,000
土地	2,300,000	支払手形	948,000	買掛金	2,548,600
借入金	1,600,000	資本金	8,537,000	売上	17,973,000
受取地代	156,000	有価証券売却益	7,000	仕入	15,012,900
給料	1,680,000	支払家賃	420,000	保険料	116,000
通信費	42,000	雑費	39,700	支払利息	96,000

付記事項

- ① かねて受け取っていた得意先那覇商店振り出しの約束手形 ¥380,000 が、期日に当座預金口座に入金されたとの連絡を取引銀行から受けていたが、記帳していなかった。

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥824,000
- b. 貸倒見積高 受取手形と売掛金の期末残高に対し、それぞれ2%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 備品減価償却高 定額法による。ただし、残存価額は零(0) 耐用年数は6年とする。
- d. 有価証券評価高 有価証券は、売買目的で保有している次の株式であり、時価によって評価する。
山口産業株式会社 400株 時価 /株 ¥4,350
- e. 保険料前払高 保険料のうち ¥84,000 は、本年5月/日からの1年分を支払ったものであり、前払高を次期に繰り延べる。
- f. 地代前受高 ¥12,000
- g. 利息未払高 ¥18,000

6

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現金	当座預金	仮払法人税等	未払法人税等
未払配当金	資本金	利益準備金	別途積立金
繰越利益剰余金	創立費	株式交付費	法人税等

- a. 山形商事株式会社（発行済株式数5,600株）は、株主総会において、繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分することを決議した。ただし、繰越利益剰余金勘定の貸方残高は ¥2,830,000 である。
配当金 /株につき ¥200 利益準備金 ¥112,000 別途積立金 ¥1,400,000
- b. 福島物産株式会社（決算年/回）は、決算にあたり、当期の法人税・住民税及び事業税の合計額 ¥3,820,000 を計上した。ただし、中間申告のさい ¥1,570,000 を納付しており、仮払法人税等勘定で処理している。
- c. 秋田商事株式会社は、設立にさいし、株式40,000株を1株につき ¥1,150 で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、設立に要した諸費用 ¥594,000 は小切手を振り出して支払った。